

新国立劇場バレエ団

白鳥の湖

Swan Lake 全4幕

日本最高峰のバレエ団北海道初登場。
バレエの究極美を観にhitaruへ！

第2幕

湖のほとりで王子は信じられない光景を見る。一羽の白鳥が美しい女性に姿を変えたのだ。悪魔にさらわれたオデットは、夜の間だけ人間の姿に戻ることができる。清楚なオデットを愛するようになった王子は、愛を誓い、舞踏会に彼女を招く。

～みどころ～ クラシックバレエの美しさ

タイトルにもなっている『白鳥の湖』の場面。王子と姫の恋、それを邪魔する悪役、そして情景を美しく表現するコールド・バレエ(※1)というクラシックバレエの基本要素が凝縮されている。なんといっても第2幕の醍醐味は、コールド・バレエの一糸乱れぬ動きと踊りで、これを観るために2階や3階の席で鑑賞する人も少なくない。一方で、王子とオデットのパ・ド・ドゥも繊細で美しく、微妙な恋の距離感を踊りでうまく表現するところも見逃せない。

※1 コールド・バレエ: コールドとはフランス語で集合、団体の意味。大勢と一緒に踊る群舞のダンサーたちのこと。

～みどころ～

あらゆる踊りを楽しめる宝石箱

最もゴージャスでバレエのさまざまな見どころが詰まった第3幕。王子の花嫁選びのシーンだが、花嫁候補の付き人たちによる民族舞踊は、各国の特徴を表現したキャラクターダンスを思う存分楽しめる。そして、最後に王子とオディールのグラン・パ・ド・ドゥ(※2)によって、クラシックバレエの様式美を観ることができ、まるで踊りの宝石箱のようなものである。

～みどころ～

白鳥と黒鳥

白鳥のオデットと黒鳥のオディールの二役を一人のダンサーが踊るのが『白鳥の湖』の大きな特徴であり、ダンサーには性格の違う二役を踊り分けるテクニックと表現力と体力が求められる。

第3幕

翌日の舞踏会。各国から花嫁候補の姫たちが招かれているが、王子の心は動かない。新たな客人の到着が告げられる。父親に連れられたオディールと名乗る女性は、姿はオデットに瓜二つだが、彼女とは異なる妖艶な魅力を持ち、王子を翻弄する。窓の外には悲しげなオデットの姿があるが、王子は気が付かぬまま、オディールを妻にすると宣言してしまう。オディールは王子を陥れるためにやってきた悪魔の娘の本性を現す。

第4幕

湖のほとり、白鳥の娘たちの元へ悲しみにくれるオデットが戻ってくる。王子が愛の誓いを破ったため、もう人間には戻れない。深い絶望が広がる。駆け付けた王子は自分の過ちを心から詫び、オデットは王子を許す。試練を経て強く結ばれた真実の愛は、悪魔に打ち勝つ。

第1幕

ジークフリード王子の城では、王子の誕生日が祝われている。王子の母である王妃が登場し、成人したのだから、明日の舞踏会で妻を選ぶよう告げる。現実を突きつけられ、物憂い気持ちの王子は、気晴らしにと弓を手に森に向かう。



※2 グラン・パ・ド・ドゥ: 主役の男女2人がアントレ、アダージョ、ヴァリエーション、コーダを踊る形式のことを言い、バレエ技術の高さと最後まで踊りきる体力が求められる。

チャイコフスキーの叙情的でドラマティックな音楽と見どころ満載の踊りの数々、さらにはピュアな愛のストーリーで数あるクラシックバレエの中でも絶大な人気を誇る『白鳥の湖』。新国立劇場版では、オデットの哀しい運命が語られるプロローグが付加され、美しい愛の物語がさらに陰影深く描かれます。

また、舞台は洗練された深みのある色彩によって幻想的な雰囲気美しく醸し出します。新国立劇場バレエ団ダンサーの高いテクニック、豊かな表現力やコールド・バレエのアンサンブルの比類なき美しさにより、世界で最も愛されているバレエ『白鳥の湖』を余すところなくご堪能いただけます。